朝日新聞　11.5.14　宮城県警

宮城県警警察官、精神疲労訴え　「夢の中で遺体数える」

宮城県警の警察官の健康管理に警察庁から派遣された神奈川県警の医師が１３日、健康診断の結果を発表した。「夢の中で遺体を数えている」などと、精神的な疲労を訴える声が目立ったという。

亀山寿子医師ら医療チームは３月下旬と５月、沿岸部の７警察署を訪れ、自ら申し出た署員ら延べ３０５人を診察した。約１割が「遺体が夢に出てくる」「３、４時間で目が覚めてしまい、その後眠れない」と心的な疲労を訴えた。

宮城県警は１３日までに約９千人の遺体を収容し、約５９００人の行方不明者の捜索を続けている。ほとんど休まず、自宅を失った警察官もいる。亀山医師は「今は問題がなくても次第に症状が出てくる人もいる。継続した支援が必要」と話した。（篠健一郎）